

校内研修（校内における各種研究会）における協働意欲を高めるためのリーダー（校長・教頭・研修主任等）のあり方、援助指導はどうあったらよいか。

□校内研修の事前におけるリーダーとしてのかわり方を明確にし、積極的に援助指導をする。

カ、リーダーシップが発揮され、それを生かした研修がなされているか（その度合いは）
キ、総合的に、現在の校内研修に対する満足度はどのくらいか

② 成員各個人から意見や考えを聞き、現状を具体的に理解する。

③ 上記①②を基に、リーダーとしてどうかかわるべきかの方針をたてる。

① 上記の実態把握と指導方針を基に、研修会事前における援助指導の内容を考える。

○なお、調査は無記名で実施する。調査結果については公表し、共通理解の資料にも活用する。

○つぎに、具体的な悩みや意見を個人との対話から把握する。場と機会を意図的に設定し、自由な話し合いの中から具体的な現状実態をつかむとともに、自校におけるモラル高揚の方向を考える。

○リーダー（校長・教頭・研修主任等）としての立場を自覚し、組織成員を生かし、協働意欲をさらに高めるという観点から「本校においてはどんなかわり方が必要か、できるか、すべきか」を考え、援助指導の方針とかわり方（態度）をまとめてみる。

○協働意欲を高めるためには、リーダーはリーダーシップを発揮する必要がある。リーダーシップとは「集団を一定の目的達成にむけて貢献させようとする働き・態度」といわれている。具体的には下記のように考えられるので、このことをふまえて援助指導の内容を考えることが大切である。

- ア、集団として目的達成に向かうよう成員各個人を援助すること。
- イ、研修の意義や見通しを共有するよう内容の検討から方向づけをすること。
- ウ、問題解決の方向を示唆しながら全体をまとめていくこと。
- エ、すすめる過程で問題や悩みを持つ成員の相談相手になること。
- オ、組織が円滑に活動できるよう連絡・調整にあたること。
- カ、研究同人として共に活動する中で、適否の判断をしたり、意見やアイデアを引き出したり、承認・激励をしながら満足感を与え、全体のふんい気をさらにもりあげる……等

② 今回の研修会のねらいが十分に達成できるよう事前の援助指導をする。

○事前においては、前記で把握した実態と指導方針を基に、上記内容に重点をおき、どの点に重点をおきどのような援助指導をしていくか、具体化していくことになる。(下記例示)
○事前の援助指導は、自校の実態や研修会のねらいによって変わってくるが、およそ次のような内容が考えられる。
ア、各係の事前準備に必要な参考文献や資料の紹介をするとともに相談にのる。